

# 茅ヶ崎同盟教会 教会学校だより

奥多摩の夏！ 2006年度夏期学校レポート

報告：加藤ちぐさ



心配された雨も降らず7月22日(土)8:00,茅ヶ崎駅に元気に集合したメンバー,今年はずんなり古里まで誰も迷わず,誰もはぐれず・えっ違うの!? 関ファミリーが立川回りで行こうと思っていたんだって,でも大人だし大丈夫,事なきを得ました。予定より早く福音の家に到着しました。美味しいお弁当をいただき,開校礼拝は川島正子先生のメッセージです。田原よね子さんとチソンさんのお話を通して家の土台のお話でした。健康な時は気がつかなかったイエス様の愛,怪我をして身体が動かなくなった時,自分にはイエス様という土台があると知り,力がわき,心が豊かになったというお話らしい・とてもよく準備なさっていて感動的なお話だったらしい・らいし?って・・・実は私,朝から夕食まで奥多摩の地にはいなかったんです。じゃー何処に。

ここは藤沢・矢部(はっぺ)球場!キャー,タイムリー,タイムリー。そうです,私は中学3年の息子の湘南野球大会1回戦の応援に行っていたのです。見事6

対5で栄光学園に勝利です,やったー。終了のサイレンを聞きながらジョギングで帰宅し,シャワーを浴びて,すぐに駅で相模線に飛び乗りました。夕食中,『こんばんは~』っていう訳です。

夕食後はお楽しみタイムです。“ひかるクン”と一緒に,稲津先生のおかしな,おかしな腹話術,上手!さすが芸人,腕も話術もメッセージもエンターテイナーですねえ。次は大白熱のゲーム大会です。心を合わせて,稲津先生が思っている色カードと同じものを出して勝ち残るゲーム。私は誰でしょうクイズ,ホンモノは誰だ・・ってやつですね。うそつきは誰!梅干入りサンドイッチ,酢入りりんごジュース,平然と口にした役者を当てるゲームです。かわいそう関くん。変人を探せ!このコーナーは森本親子強し。最後まで声をなが~く出している肺活量コンテストは森本っちゃん(校長)の勝ち,まばたきしないでどのくらい我慢できるかコンテストは響くんの勝ち。何じゃこの親子,スゴすぎ~!そして最後は風船割りゲームです。足元につけた他人の風船を踏んで割るゲーム。あまりの白熱戦に負傷者出る。おっとここも森本っちゃん,関くんとゴツツンコしてまぶたの上がはれちゃった。明日は青タンかなあ,そういう訳でこのゲーム危険とのことで終了となりました。この後は大花火大会です。毎年,同じ時期にキャンプに来ている,埼玉県新座市の西堀キリスト福音教会,相模原中央教会のお友だちと合同できれいなドラゴン花火,手持ち花火で楽しみました。和奏ちゃんもつ線香花火がよけいやさしい光に見えたのは私だけかな。楽しい第1日目はトランプ大会で盛り上がり,夜も更けました。

第2日目,やったー。お天気は晴れ,すご~い!茅ヶ崎は雨だそうです。7時,お祈りで1日が始まります,感謝,感謝。7時45分,ラジオ体操,おばさんみんな頑張りました。朝食の後は聖日礼拝です。森本っちゃんの“種”の話。良い土地に蒔かれた種と,いばらや石地に蒔かれた種のお話をしっかりコチ亀の両津勘吉がシメてくれました。分級が終ってよいよ思い出のTシャツ作りです。昨年に引き続いてとこちゃん(大木先生)がテプラを使って文字をカッコよくアイロンで付けられる技を教えてくださいました。安田先生がおうちで作っておいて下さった型をポンポンとスポンジでおさえるだけでみるみる素敵な絵ができる。私は安田先生のみまわりの型にとこちゃんの“向日葵”とテプラで作って





できました。わかちゃんのパパの顔(どう見てもウルトラマン)に鳥さんのプリントがとってもかわいかったね。

一方,早朝4時から起きてバーベキューのテント設営,道具の運び出しなど森本ちゃんと関くん,本当にご苦労さま,ありがとうございます。もっと早くから準備して下さった福音の家の大通さんに本当にありがとうございました。そして何回にも分けて河原まで私たちを運んでくれたこんちゃん,皆さんのお陰です。

水はつめた~くて,空気は澄みきっている。緑がまぶしい。う~ん,森林浴ってやつ!気持ちいい。この自然の中で食べる焼きソバは最高。鉄板でジュージュー格闘してくれた悟くん,ごちそうさまでした。焼きトウモロコシもウイナーもううまかった!ごっつぁんでした。

帰りに子どもに大きなプレゼント・・・何と軽トラックの荷台にみ~んな揃って乗っかって小川を渡って大騒ぎ,まさにスプラッシュ・マウンテンなみの迫力と楽しさは奥多摩ディズニーランドでした。バーベキューから戻ると,おいしいようなスイカが切ってあって,とこちゃんは何と7つも食べたそうです。信じられません。

さて私はひとりジョギング・タイムです。さぁー走ろう奥多摩の町を!毎年,





この地に来ると決まったコースを走ってまーす。奥多摩大橋という巨大つり橋があって、ここを渡る時が気分最高です。

バーベキューのあと、軽トラ・ドライブに続き今年 2 回目のプレゼントは、大通さんが用意して下さった巨大エア・バグ（よくデパートの屋上にある遊具）です。PK 合戦をやったり、大人も子どもも大はしゃぎで汗だくで跳ね回りました。終わった後、おばさんたちは膝がガクガクしていました。

夕食後、大活躍の関くんが明日の仕事のためにお帰りになりました。本当にありがとうございました。

さて 2 日目夜はお楽しみ景品満載ビンゴ大会です。のぞみちゃんが見事一等賞を獲得しました。次に部屋別の出し物大会です。まず男子組は駄洒落クイズの

数々です。サムエルくん可愛かったよ、一生懸命クイズを出していた。でもやさしすぎ。次は小学生&すみこ・ゆきチームです。ホンモノは誰だクイズから、水着が脱げちゃった人は誰？池に落ちた人は誰？田んぼに靴を落とした人は誰？えーっ、こんな人ばかりの教会って何なの！？うそのような本当のエピソードをもっている人が多すぎです。

そして「おおかみと5ひきの子ヤギ」の劇では、我が娘の絵美はおおかみに一番にだまされる子ヤギ役、そしておおかみは勿論、教会イチの芸人稲津悠紀!!大笑いでした。最後は中学生&大木・美穂+和奏・ちぐさチームです。「キューティーハニーとガリマッチョ」なる曲の替え歌をなっちゃんが考え、振り付けしたダンスを披露しました。練習の時から超あやしいダンスで大いに盛り上がっていた人がいました。振り付けも「ガリマッチョ」は結局その人が考えたものをみんなで覚えました。その人とは・・・そう“稲津家の血”美穂ちゃん!! オーイ、あなたはただいるだけならとっても綺麗よ、アーッ、でもやってしまったか・・・血は争えない。『みほー、お前もか





ー！』そして横で同じ動きではしゃぐ『わかなー、あー孫までも・・・』（悠紀ばーちゃん絶句）。教会員のみなさま、美穂ちゃんはこんな方です。そしてフィナーレはお口直しに和奏ちゃんの独唱で“愛するものたちよ”すごい、この音量・音程さすがーでした。

予定されていたキャンプファイアーは雨のため、室内でのキャンドル・サービスとなりました。電気を消した室内でのこのキャンドルの灯りが本当に美しく、幻想的で最高の舞台を作ってくれました。悟くん、篤くん、響くんの若者3名が神様を受け入れたそれぞれの証しを語ってくれました。涙を流しながら語ってくれた悟くん、自分が立ち直るまでをやさしい言葉で話してくれた篤くん、アメリカに行き変えられた響くん、若者ってやっぱりいいわねー、カッコよかった。証しを聞いてみんなで感想を言い合った時、なっちゃんの「神様の話を聞いて生れてはじめて泣けました」という一言から、どんなにこの3名が素敵だったか、感動的なお話だったかが分かると思います。私たちだけで味わってしまうのはもったいないので、今度は是非もっと多くの皆さんにも語って下さいね。心満たされて2日目の夜も更けました。

さて、3日目の朝です。今朝もデボーション、体操、そして帰る準備のため掃除、荷物整理など忙しい朝となりました。9時からの閉校礼拝は大木先生が語ったメッセージ、サマリアの人がユダヤの人を助ける「よきサマリア人」でした。サマリアとユダヤの人々がなぜ犬猿の仲になったのか、歴史で詳しくまた分かりやすく教えてくれて、私もよ～く分かりました。そしてマザー・テレサの話を通して、本当の“隣人になる”ということがどのようなことか分かった気がしました。インドのカースト制度が現在でもあり、家に一度も入ることなく死んで行く多くの人がいることを改めて教えてもらい、考えさせられた時間でした。

最後に、このキャンプの感想文と福音の家のスタッフにお礼の寄せ書きを書いた後、最後の最後に森本っちゃんの“難問ダブル間違い探し”に全員でチャレンジしました。ナッ何と、なっちゃんが60秒で“終わった”。まじー？早い！どういう眼をもっているのかしら。無事、すべてのプログラムを終えて帰路につきまし



た。途中、橋本駅でサムエルくんにはバイバイして茅ヶ崎駅まで爆睡でした。「ただいまー」、「おつかれー」。麗子先生、お迎えありがとうございます。

《追伸》 ちなみに、ちぐさの怨念だと野球の人たちに言われたのですが、23日、24日は雨で試合が延び延びとなり、私はしっかり25日の試合に息子の応援に行きました。見事、県大会出場となりました。

#### 編集後記 (Aug.1st.2006, Updated)



2006年7月22～24日、奥多摩福音の家で行われた夏期学校の思い出を加藤ちぐさ姉が詳細にレポートしてくれました。原稿10枚という膨大なボリュームで時空を越えて思いつくままに記されており、ジョギング中に書いたのではと疑いたくなる判読困難な手書き文章を何とか再現しました。

昨年度は、お姉さんのあずさ先生によるレポートでしたが、これも「山本家の血」なのではないでしょうか。侮れません。じっくりとお楽しみ下さい。

(森本 記)